

東郷平八郎・小笠原長生の関係と東郷寺創建について

1. 東郷平八郎と小笠原長生の関係

- ・二人は上官(東郷)と部下(小笠原)の関係。
- ・小笠原は参謀・文書起草の中心で、東郷が最も信頼した側近。
- ・日本海海戦「旗訓示文(皇國の興廢この一戦に在り….)」を起草したのも小笠原。
- ・小笠原は東郷の思想を深く理解し、東郷像を後世へ伝えた。

2. 東郷寺創建に小笠原が深く関わった理由

- ・東郷死去後、海軍・東郷家・小笠原で顕彰の在り方を協議。
- ・東郷の遺言として「寺を建てよ」という明文は存在しない。
- ・ただし東郷の禅的・質素な価値観を最も理解していた小笠原が、「寺院が最も東郷の精神にふさわしい」と判断し、構想を主導。
- ・結果として、派手な記念館や神社ではなく、精神修養の場としての寺(東郷寺)が創建された。

3. 東郷寺創建の時系列

1934(昭和9) 東郷平八郎死去、小笠原が顕彰構想に関与

1935-36 別荘跡に寺建立の方針が確立

1937 設計決定、山門計画開始

1938 建設開始

1939 本堂・境内整備進行

1940 山門完成

1941 伽藍ほぼ完成

1942 東郷寺正式開山

4. まとめ

- ・東郷寺は「明確な遺言」ではなく、小笠原が「東郷の精神を最も忠実に形にした結果」として生まれた。
- ・東郷の別荘跡を選んだのも、東郷の生活・精神に最も近い地であったため。
- ・小笠原は実質的に「東郷寺の思想的プロデューサー」であった。